
 記 事

◎第7回理事会（昭.30.12.16）出席者：菊池会長，種谷副会長，山本，江里口，柴橋，星埜，後藤，平井の各理事，中川書記長，榊箸，朝倉，堀内の各主任書記。議事：1）11月中の行事その他報告，2）会誌および論文集編集委員会を次のとおり改組する。

a) 会誌編集委員会：竹下春見，西畑勇夫，菊池三男，奥田教朝，小林元椽，久保 赴，杉田安衛，和仁達美，安河内麻雄，栗栖義明，安藤 栄，松本繁樹，八十島義之助，林 一幹，尾藤五郎，猪股俊司，森 茂，針ヶ谷侘，後藤編集部次長，左合抄録委員長，

b) 論文集編集委員会：（第一部会）岡本舜三，大宮克己，久保慶三郎，三浦一郎，村上永一，山田順治（第二部会）本間 仁，村 幸雄，肥後春生，左合正雄，関 慎吾，岩塚良三，林 泰造，吉川秀夫，長尾義三，岸 力

（第三部会）星埜 和，石上立夫，伊丹康夫，市原松平，白石俊多，福岡正己

（第四部会）佐島秀夫，大串満馬，神田雄次，三野定，井上 孝，春日屋伸昌，北岡寛太郎，今野 博
3) 会誌編集方針公告について，4) 表紙図案の公募について，5) 文部省日本ユネスコ国内委員会から「外国人のための日本事典」原稿執筆方依頼について，6) 第7回工学大会にともなう日本工業総合展覧会施設委員に河北，畠山両理事を推薦すること，7) 委員追加（耐震工学委員会：石井靖丸君，土木用語常識事典委員会：宮崎政三君，鉄筋コンクリート分科委員会：仁杉 巖君，無筋コンクリート分科委員会：丸安隆和，村田二郎君，コンクリート鉄道構造物委員会：仁杉 巖君），8) 西部支部常議員 根来幸次郎，傍島 湊両君転出のためそれぞれ山口和雄，田賀秀和の両君を依頼すること，9) 事務簡略および経費節約のため年次講演会原稿をオフセット印刷とすること，10) 国際道路会議出席者の講演会は適当な時機に考慮すること，11) 東京都各種功労者の表彰並びに褒章については該当のものなし，12) 来日中のドイツ土質工学会長 Lohmeyer 氏の講演会開催については，星埜理事に一任，13) 会員入退会について。

◎各種委員会

1. 第7回学会誌編集委員会（昭.30.12.19）出席者：星埜，後藤正副委員長，成岡，荒井両地方委員，林（泰），北岡（代），針ヶ谷，猪股，大宮，西畑，尾藤（代），白石，今野，竹下，林（一），久保の各委員，中川書記長，徳平幹事，岡本編集部員。協議事項：1）

会誌および論文集進捗状況報告，2）投稿論文および新規受付論文審査委員の決定，3）依頼原稿の件，4）学会誌編集方針の件，5）その他，6）41 巻 2号登載論文を次のとおり予定した。

後藤尚男：橋脚井筒の側面平行摩擦力と上向反力を考慮した場合の耐震計算法，石原藤次郎・石原安雄：貯水池用アナログ・コンピューターの試作について，小西一郎・山田善一：鋼構造物の振動減衰性と桁橋の強制振動性状について，村山朔郎・植下 協：純水の場合の土中水の熱力学的取扱について，岩井重久・他2名：緩速濾過による水中放射能除去の実験的研究，成岡昌夫：1 スパン門型格子ラーメンの研究。

2. 第7回学会誌編集小委員会（昭.30.12.5）出席者：後藤副委員長，長尾委員，徳平幹事，岡本編集部員。協議事項：41 巻1号は国際会議特集号として最終審議を行い詳細を決定した（割当 64 ページ）。

3. 第7回学会誌抄録委員会（昭.30.12.7, 8 両日）出席者：左合委員長，稲田，久野，嶋，二階堂，山口の各委員，千秋幹事，徳平編集幹事，岡本編集部員。協議事項：1）41 巻1号登載用として5編を予定（割当 6 ページ），2）繰越 19 編，投稿抄録1編につき審議した，3）学会誌編集改革案による抄録委員会の方針につき協議した。

4. 第1回耐震工学委員会（昭.30.12.1）出席者：沼田委員長，東，岡本，神谷，小西，近藤，平井（代伊藤），寺島（代）の各委員，久保幹事及び中川書記長。議事：1）岡本委員から経過説明，2）明年6月パークレーで開催される World Conference of Earthquake Engineering に提出する土木関係論文について，3）委員会の性格と今後の進め方，4）委員に石井靖丸君を追加すること，5）次回国際会議の開催地は状況を見て協議すること。第2回同委員会（昭.30.12.22）出席者：沼田委員長，東，岡本，畠山の各委員，久保幹事および中川書記長。議事：1）岡本委員から国際会議提出論文について経過報告，2）国際会議事務局からの正式の照会を一般会員および主な関係局に知らせること，3）昭和 31 年度の研究発表として夏季講習会計画に組み入れて貰うよう要請すること。

5. 第2回溶接鋼鉄道橋示方書委員会（昭.30.12.2）出席者：田中委員長，成瀬，福田，青木，埴田，平井，友永，田中，安宅の各委員，中根（代大谷），西村，菊池，田島，阿部の各幹事。議事：1）示方書総則，材料及び許容応力等について審議，2）年内に小委員会を，1月に本委員会を開催の予定。

6. 第4回編集企画委員会(昭.30.12.3)出席者:星莖,後藤正副委員長,竹下,猪股,林(泰),徳平の各委員,中川書記長。議事:1)12号登載の「お知らせ」案と寄稿注意を審議した,2)表紙の体裁は内容と同時に41巻4号から変更することとし,そのデザインを公募する(12月,1月号に募集し,2月15日までに集まつたものを選出すること),3)編集委員会の構成を大体決定し,明年1月から発足する。第5回同委員会(昭.30.12.27)出席者:星莖,後藤正副委員長,左合抄録委員長,西畑,竹下,林(泰),猪股,尾藤(代永田),中川書記長,徳平幹事,深谷新幹事,岡本編集部員。議事:会誌および論文集編集委員会内規,覚え書,並びに投稿注意等の原案を審議した。

7. 第3回土木用語常識事典委員会(昭.30.12.5)出席者:片平委員長,井口,八十島,山田,田中,奥田(代八木田),小林(泰),市浦,寺島,志関(代手塚),坂本(代大野),芝田の各委員,中川書記長。議事:1)道路,鉄道,水理,製図の各部門選定用語を審議。2)地質の部を追加し,宮崎政三君を委員に追加すること。第4回同委員会(昭.30.12.16)出席者:片平委員長,井口,市浦,岡本(代),志関,坂本(代),小林(泰)の各委員,議事:1)河川,発電水力,ダム,トンネル,基礎工の各部門の選定用語を審議した。

8. 第29回コンクリート鉄道構造物委員会(昭.30.

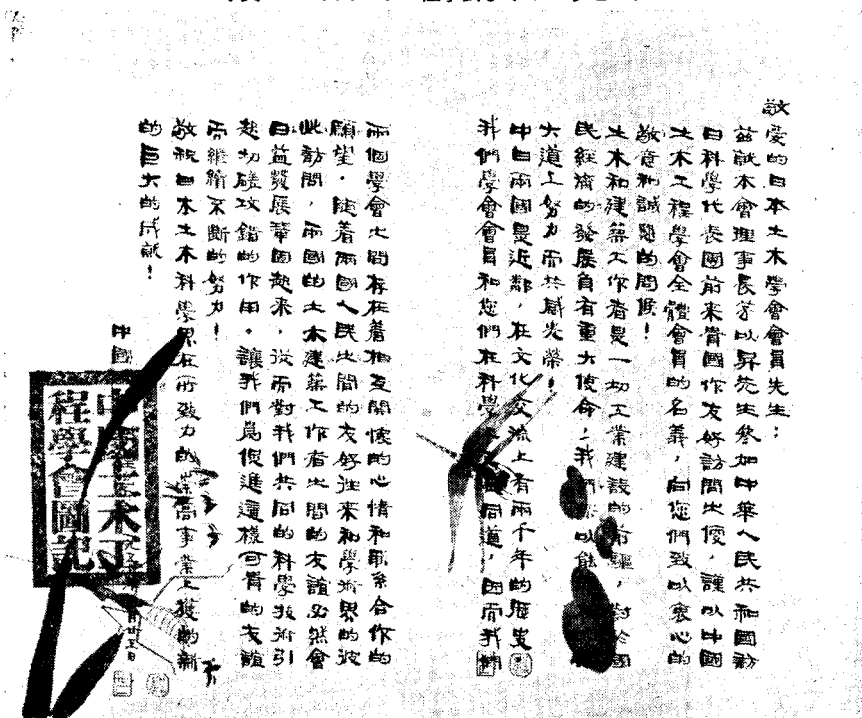
12.9)出席者:吉田委員長,沼田,高橋,岡本,平井,高坂(代尾崎),大槻(代三浦),坂本(代天野)の各委員,山内,白石,和仁(代赤沢),川口,深谷,松本の各幹事。議事:1)1章一般構造細目1~3条の逐条審議。

9. コンクリート示方書委員会各分科会 無筋コンクリート分科会(昭.30.12.21),鉄筋コンクリート分科会(昭.30.12.8および27日),ダムコンクリート分科会(昭.30.12.9および21日),それぞれ逐条審議した。

10. 第11回水理委員会(昭.30.12.13)出席者:安芸委員長,米屋幹事長,市浦(代尾形),岡田,吉川,坂本,扇田,高畑,寺島(代),浜田,本間,林,村(代荒木),米元,近藤の各委員,中川書記長。議事:1)地球物理連合の合同講演会の水理研究部会として,講演会(シンポジウムの形として1日10題程度)を5月中旬開催のこと。2)水理公式集改訂小委員会を明年1月10日開催の上根本方針を決定のこと,3)IAHRのSymposiumを1957年9月開催については後日協議のこと。

◎茅以昇,汪胡楨両氏懇談会(昭.30.12.20)日本学術会議会長その他の招請で来日した郭沫若氏を団長とする中国科学院訪日学術視察団員の土木技術者である両氏が中国土木工程学会から日本の土木学会および建

写真一 中国土木工程学会よりのメッセージ



築学会にメッセージを携えられたので日本建築学会と共催で日本工業クラブ第7会議室において午前11時から懇談会を開催した。茅以昇氏から菊池本会会長、武藤建築学会会長にそれぞれ写真-1のようなメッセージを手交せられ、また汪胡楨氏から本会に下記の出版物を贈られたので、本会から両氏に対し、土木工事写真集と最近の学会誌を贈呈した。

治准（淮河の治水工事写真集，中華人民共和国水利部贈）

仏子嶺水庫（ダムおよび貯水池の油絵）

化水災為水利（ダムの油絵），進水塔工程（油絵）

治准パンフレット（三河湖，仏子嶺水庫，和平戦士参観治准工程，治准戦線上的婦女，蘇北灌溉総渠）

両氏ともその道の権威であるので、それぞれ技術的懇談に花を咲かせたが和やかな雰囲気の中に12時30分散会した。

懇談会本会側の出席者は菊池会長，藤井副会長，山本理事，田中，吉田，沼田，福田，安芸，本間，岡本の各種関係委員長であつた。なお茅以昇氏は鉄道研究所長，武漢長江大橋技術顧問委員，工程会主任委員，中国科学院技術院技術科学部副主任，米国カーネギー理工大学工学博士，（元）北洋大学校長，（元）中国交通大学校長。汪胡楨氏は水利工程設計院総工程師，中国科学院技術学部委員，米国コロネル大学土木工学修士，（元）仏子嶺水庫総工程師，（元）治准委員会工程部長である。

この懇談会に先立ち茅以昇氏は次のような講演を行った。

写真-2 講演する茅以昇氏



◎揚子江橋梁工事講演会（茅以昇氏，昭.30.12.20，午前10時から日本工業クラブにおいて）聴講者約100名，藤井副会長がまず茅以昇氏を紹介して，同氏から日本の土木建築両学会会員に対し挨拶の後，揚子江橋梁架設計画の概要を述べ，技術的内容についてスライドによつて詳細説明され，最後に中国2000年前のアーチが今なお使用せられている実況をスライドについ

て説明し，堂にあふれるばかりの聴衆に多大の感銘を与え，講演を終つた。

講演要旨：本橋梁は武昌のへび山と漢陽の龜山とを結んで揚子江を渡る最初の長径間橋梁で，全長1200m，上部構造は3径間連続二段トラスで上部を道路，下部を鉄道として使用する設計である。橋脚工事は水深最大40m，流速3m/secであるから，台船で鉄製ケーソンを曳航して所定位置に沈め，その中に外径1.5mの中空鉄筋コンクリート杭を二重環状にwater jetを併用して岩盤に達するまで打込み，その中にコンクリートを填充する。次に鉄製ケーソンの内側にsheet pileを打込み，内部に水中コンクリートを施工するものである。

現在武昌側の1基が完成し3基がほぼ完成に近いところまで進んでいる。1957年に橋台，橋脚全部が完成し，58年にトラスの架設，取付道路工事，鉄道の布設等の全工事が完成する予定である。

講演後藤井副会長から会員一同に代つて町重な謝辞を述べ散会した。

◎関係学協会の動き

第6回応用力学連合講演会 1) 第6回は応用物理，日本機械両学会が幹事学会となつた，2) 講演会開催地は京都とする。3) 運営は幹事学会の運営委員会が中心となり，講演会の実施は京都の担当者が一切を世話する。

支部だより

1. 東北支部 巡回映画会 下記のとおりの内容および日程で開催し非常に有意義に終了した。内容：変貌する大天龍（佐久間ダム第2輯），熊ヶ根橋，上推葉アーチダム，青函トンネル地質調査，冬の八幡平，日程：仙台市（11.2）観覧者1500名，青森市（11.4）300名，盛岡市（11.5）400名，福島市（11.11）400名，山形市（11.12）450名，会津若松市（11.14）200名，計3250名。役員会（昭.30.12.13）出席者：照井常議員以下20名。議事：1) 巡回映画会報告，2) 技術研究会開催について（2月中旬頃東北地建とタイアップして開催することとし，機械工法研究会もあわせて行い，またその際東北大学に何か特別講演を依頼する。本件について1月幹事会で詳細立案する），3) 会計中間報告，4) その他。

2. 中部支部 第9回幹事会（昭.30.12.21）出席者：鈴木幹事長外16名，議事：1) 報告（11月13日に挙行した佐久間ダム見学，12月13日学生見学会，土木賞委員として荒井利一郎氏を推すこと，幹事変更について），2) 協議（1月行事予定：1月21日午後講

演会，2月行事予定：2月18日名古屋高速鉄道建設工事見学会，3月行事予定：3月19,20日道路に関する講習会，学会誌編集方針について荒井編集委員よりの伝言を渡辺幹事から説明)，第2回役員会(昭.30.12.21)出席者：杉戸支部長外31名，議事：前回以後の行事その他の報告後懇談。

3. 関西支部 第4回土木工事研究会(昭.30.12.9, 大阪市立工業研究所講堂)，演題と講師：1) プレストレスト コンクリート工法(清水建設，上荷敬一)，2) スライディングフォーム工法(大林組，中川貞雄)，

3) コンクリート養生剤について(呉羽化学工業，真弓莞爾) 聴講者110名。

4. 西部支部 講演会(昭.30.12.17, 九州大学工学部講堂) 演題及び講演者：欧米土質工学事情(九大助教授，山内豊聰)，欧米におけるセメント工業事情(麻生産業KK，大坪正典)，上椎葉ダム工事を顧みて(九電顧問，熊川信之)，黄河の治水について(中国科学院委員，汪胡楨)，映画：上椎葉ダム(九電提供)，変貌する大天龍(東和映画提供)

昭和30年12月分入退会報告(昭.30.12.1~12.31)

1. 入会	41名(正10, 准21, 学生10)
2. 退会	9名(特2級1, 特3級1, 正5, 准2)
3. 転格	11名(准から正へ11)

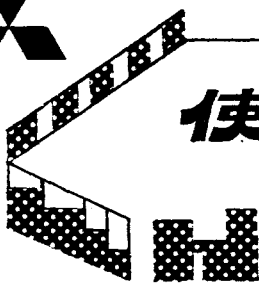
会員現在数(昭.30.12.31.現在)

名誉員	賛助員	特別員	1級	2級	3級	正員	准員	学生員	合計	増加
19	30		29	71	124	5933	5766	1203	13175	32

昭和31年1月10日印刷 土木学会誌 第41巻 第1号 定価100円
昭和31年1月15日発行

編集兼発行者 東京都千代田区大手町2丁目4番地 中川一美
印刷者 東京都港区赤坂溜池5番地 大沼正吉
印刷所 東京都港区赤坂溜池5番地 株式会社技報堂

東京中央郵便局区内 千代田区大手町2丁目4番地 電話和田倉(20) 3945番
4078番
発行所 社団法人 土木学会 振替東京16828番



使って安心

三菱セメント

本社 東京都千代田区丸の内1の4(新丸ビル)
電話(27) 1341-9・1441-9

工場 福岡県八幡市黒崎(電話)八幡3750-2
営業所 大 阪・広 島・福 岡

謹 賀 新 年

最古の厂史と最新の技術

HUME PIPE

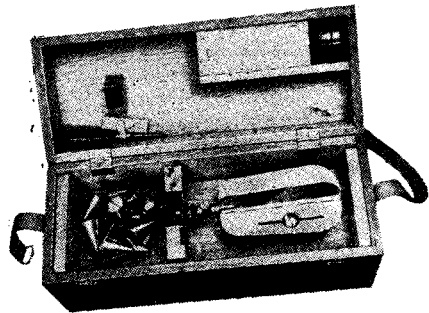
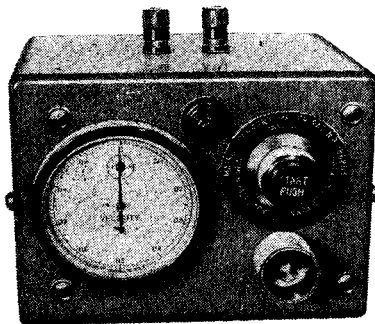


日本ヒューム管株式会社

本社並びに
東京営業所 東京都港区芝新橋6-78 電話 芝(43) 1181~5
大阪営業所 大阪市北区西扇町17 電話大阪(37) 7433~6

八幡営業所 八幡市築地町二丁目14 電話八幡 462. 818
函館営業所 函館市龜田町202 電話函館 5081. 3512
工場 川崎・尼ヶ崎・八幡・函館

松井式流速計



- ◇流速が即時メーターに指示出来る
- ◇ストップウォッチ・レシーバーがいら
ない

……カタログ贈呈……

営業品目

測量器械・製図器械及用紙
気象器械・度量衡器・計量器

日本光学代理店

資 社
會 三

三笠商店

東京都中央区日本橋室町四丁目一番地
電話日本橋(24) 0889・1807

MIKASA